令和４年度広島市多文化共生意識調査結果の概要

本市はこれまで、外国人市民から日頃の生活実態や行政サービスについて意見を聞き、市政を推進する上での基礎資料を得ることを目的に、平成 14 年（2002 年）と平成 24 年（2012 年）の２回、広島市外国人市民生活・意識実態調査を実施している。その調査結果は広島市多文化共生のまちづくり推進指針の策定を始め、本市の多文化共生施策の実施に活用してきた。

前回調査から 10 年が経過する令和４年（2022 年）には調査の名称を広島市多文化共生意識調査と改め、３回目の調査を実施した。今回の調査では、外国人市民だけでなく、日本人市民も調査対象に含めており、外国人市民と日本人市民の回答を比較できるよう設問を設定した。

■　**調査時期**

令和４年９月１日～10 月 14 日（44 日間）

■　**調査対象・項目等**

	外国人市民向け調査	日本人市民向け調査
調 査 対 象	広島市内に居住する 18 歳以上の外国人市民　5,000 人	広島市内に居住する 18 歳以上の日本人市民　5,000 人
有効回収数(率)	1,662 人（33.2%）	2,569 人（51.4%）
調 査 項 目	＜全 29 問＞ 生活情報の入手方法、相談先、日本語学習、差別体験、日本人との交流等	＜全 17 問＞ 差別を見た経験、外国人との交流、多文化共生社会についての認識等

１　外国人市民向け調査

⑴　回答者の属性

①　国籍・在留資格（別紙 表１～３）

住民基本台帳のデータ上は、令和４年 12 月末時点の本市の外国人市民は 19,986 人となっており、10 年前（2012 年３月末）の 15,902 人と比較し約 26%増加している。また、国籍や在留資格が急増するなど、ベトナム国籍、技能実習が急増するなど構成に変化が見られる。

こうした状況を反映し、アンケートの回答者の属性においても上位５か国の国籍の割合が前回調査の 91.3%から 80.0%に低下している。具体的には、韓国・朝鮮籍は 44.7%から 25.4%に減少し、ベトナム、フィリピン、タイといったアジア圏国籍の占める割合が 14.2%から 39.3%に増加している。

在留資格では、技能実習が 2.7%から 12.9%に増加し、特別永住者が 34.9%から 15.1%に減少している。

②　日本での居住期間（別紙 表４）

日本に住んでいる期間については、「30 年以上」が前回調査の 40.4%から 26.7%に減少している一方で、５年未満（「１年未満」、「１年以上～３年未満」及び「３年以上５年未満」の合計）は 17.4%から 29.6%に増加している。

③　定住意思（別紙 表５）

「日本にずっと住む」が前回調査の 74.4%から 57.2%に減少し、「日本を主な生活の場所にするが母国と日本を行き来する」が 11.4%から 19.9%に、「わからない」が 4.7%から 11.7%に増加している。

⑵　主な調査項目の結果

①　相談先について

問 11　生活に関することの相談先（別紙 表６）

「日本に住んでいる家族・親族」が 54.8%と最も多いが、前回調査の 70.0%から 15.2 ポイント減少している。次に多い「日本に住んでいる同じ国の友人・知人」が 45.3%で前回調査とほぼ同じである。次いで「日本人の友人・知人」が 35.0%であり、前回調査の 47.2%から 12.2 ポイント減少している。市や県の相談窓口は 13.5%であり前回調査の 11.8%からわずかに増加している。

②　生活情報の入手先について

問 12　家族・親族以外の日本での生活情報の入手先（別紙 表７）

「日本人の友人・知人」が 45.3%と最も多いが、前回調査の 54.9%から 9.6 ポイント減少している。次に多いのが「同じ国の友人・知人」で 37.1%であり、前回調査の 31.4%から 5.7 ポイント増加している。次いで「ウェブサイト」が 36.5%であり、前回調査（「インターネット」として聞いている）の 36.7%とほぼ同じとなっている。「県や市の広報紙」は 4.4%（前回 5.8%）、「県や市の相談窓口」は 6.0%（前回 4.3%）であり、前回調査とほぼ同じとなっている。

③　市役所等で困ったことについて

問 25　市役所や区役所に行って困ったこと（別紙 表８）

「困ったことはなかった」が 61.1%と最も多いが、前回調査の 63.1%からわずかに減少している。次に多いのが「書類が日本語で、書き方がわからなかった」が 19.0%であり、前回調査の 17.1%からわずかに増加している。次いで「どこの窓口に行ったらよいかわからなかった」が 10.0%であり、前回調査の 12.7%から 2.7 ポイント減少している。

④　日本語学習について

問 14　日本語学習の方法（別紙 表９）【新設】

「独学で」が 70.0%と最も多く、「無料の日本語教室で」（本市が実施する日本語教室や、ボランティアによる日本語教室が該当）は 15.9%であった。

問 16　日本語がどれぐらいできるか。（別紙 表 10）

「日本語を母語とする人と同じぐらい」が、「話す・聞く」では前回調査の 50.4%から 32.9%に、「読む」では 53.0%から 35.3%に、「書く」では 56.1%から 38.1%に減少している。

⑤　地域の活動について

問 23　地域の活動にどのように参加しているか（別紙 表 11）

『参加している』（「参加しているがあまり活動していない」と「参加して積極的に活動している」の合計）は**「夏祭りなど住んでいる地域の行事」**が 26.0%と最も多く、次いで**「町内会・自治会」**（24.3%）、**「趣味やスポーツなどの活動」**（23.2%）と続く。**「老人クラブなど高齢者の活動」**は 4.2%と少ない。

また、「今は参加していないが将来は参加したい」は、**「ボランティア活動」**が 18.9%と最も多く、次いで**「自分の文化や言葉を日本人に伝える（教える）活動」**（16.4%）、**「国際交流のイベント」**（15.3%）と続く。

⑥　暮らしやすさについて

問 26 広島市の暮らしやすさ（別紙 表 12）

「とても暮らしやすい」は 43.6%であり、前回調査の 33.5%から 10.1 ポイント増加した。

問 27 広島市での暮らしへの印象（別紙 表 13）【新設】

「公共交通機関（バスや電車など）が便利」が 62.9%と最も多く、次いで**「買い物に便利」**（60.0%）、**「街の中がきれい」**（53.4%）と続く。

2　日本人市民向け調査

⑴　回答者の属性

①　外国語の能力（別紙 表 14）

「単語なら話せる」が 46.2%と最も多く、次いで「全く話せない」の 43.6%となっている。

②　海外経験（別紙 表 15）

「２週間以内で海外に滞在したことがある」が 50.0%と最も多く、次いで「海外に行ったことはない」の 37.1%となっている。

⑵　主な調査項目の結果

①　多文化共生の感覚

問 12「同じ地域で外国人と共に暮らす」ことが身近になってきていると感じるか（別紙 表 16）

「そう思う」（29.7%）、「そう思わない」（33.9%）、「どちらともいえない」（33.9%）がほぼ同率となった。

②　外国人が増えることによる影響

問 15 外国人が増えると、どのような影響があると思うか（別紙 表 17）

ポジティブ・ネガティブ両面の影響を問として設定し、「そう思う」から「全くそう思わない」まで、５段階で自分の考えに近いものを選ぶ形式とした。

【ポジティブな影響の選択肢】
・様々な考え方に触れる機会が増える
・労働力が補充される
・外国の文化・風習に触れる機会が増える
・外国語を学ぶ機会が増える
・外国人に対する偏見が減る
・日本人が海外に関心を持つようになる

【ネガティブな影響の選択肢】
・治安が悪くなる
・日本人の雇用機会が奪われる
・外国人を受け入れるため、税金からの支出が増える
・日本の文化が損なわれる
・外国人と日本人の間のトラブルが増える

ポジティブな影響

・　『そう思う』(「そう思う」「少しそう思う」の合計）が最も**多い**のは、「**様々な考えに触れる機会が増える**」(75.2%）である。
・　最も**少ない**のは**「外国人に対する偏見が減る」**(42.0%）であり、この設問は、「どちらともいえない」(39.8%）が他の設問より多い。

ネガティブな影響

・　『そう思う』が最も**多い**のは、**「外国人と日本人の間にトラブルが増える」**(47.7%）である。
・　最も**少ない**のは**「日本人の雇用機会が奪われる」**(24.5%）である。

3　外国人市民と日本人市民の調査結果の比較

⑴　互いの付き合いについて（別紙 表 18～20）

日本人と外国人の互いの付き合いについては、**「付き合いがある」**は**外国人市民が 93.6%**となっており、**日本人市民の 22.6%**を 71.0 ポイント上回っている。

日本人と外国人が付き合う上で**「難しいと思うことがある」**は**外国人市民が 57.9%**となっており、**日本人市民の 91.7%**を 33.8 ポイント下回っている。

どのようなことが難しいのかについては、**「日本人（外国人）との人間関係の作り方がわからない」、「文化や習慣が違う」、「日本人（外国人）と共通の話題が少ない」**は外国人市民が日本人市民を上回っている。**「言葉が通じない」、「付き合うきっかけがない」、「近所に日本人（外国人）が住んでいない」**は日本人市民が外国人市民を上回っている。

⑵　外国人と日本人の関わり方について（別紙 表 21）

様々な立場の考え方を問として設定し、「そう思う」から「全くそう思わない」まで、５段階で自分の考えに近いものを選ぶ形式とした。

・Ｂの**「外国人が日本語で日本人とコミュニケーションするべきだ」**では、『そう思う』(「そう思う」と「少しそう思う」の合計）の割合は、**外国人市民（55.1%）が日本人市民（37.5%）を 17.6 ポイント上回っている**。
・Ｃの**「外国人が日本のルールや習慣に合わせる努力をするべきだ」**では、『そう思う』の割合は、**外国人市民（65.9%）が日本人市民（54.0%）を 11.9 ポイント上回っている**。

・Gの「日本人と外国人の不平等をなくすため、外国人に対し特別な支援をするべきだ」では、『そう思う』の割合は、外国人市民（44.2%）が日本人市民（17.6%）を 26.6 ポイント上回っている。

⑶　外国人に対する差別的な扱いについて（別紙 表 22）

問 17　外国人だからという理由で嫌な思いをすることがあるか（外国人市民向け）
問 13　外国人に対する差別的な扱いを見たことがあるか（日本人市民向け）

外国人市民が生活の中で嫌な思いをした、また日本人市民が外国人に対する差別的な扱いを見かけた経験を比べたところ、外国人市民の『ある』（「よくある」、「ときどきある」、「あまりない」の合計）は 68.2%であり、日本人市民の『見かける』（「よく見かける」、「ときどきある」、「あまりない」の合計）の 16.6%を 51.6 ポイント上回っている。

問 18　外国人だからという理由で嫌な思いをしたのはどういうときか（外国人市民向け）
問 14　見かけた差別的取扱いは、どんな状況で行われたものか（日本人市民向け）

外国人市民には「生活の中で嫌な思いをした場面」を、日本人市民には「外国人に対する差別的な扱いを見かけた場面」を尋ね、回答の割合を比較した。

選択肢	外国人市民 (A)	日本人市民 (B)	差 (A-B)
街を歩いているとき	8.0%	18.6%	▲10.6
レストランやお店で	13.1%	12.5%	0.6
病院で	12.3%	4.7%	7.6
職場で	27.2%	11.8%	15.4
近所の付き合いで	14.2%	8.5%	5.7
子どもの学校や幼稚園、保育園で	9.1%	5.2%	3.9
市役所や公共機関の窓口で	13.0%	2.6%	10.4
公共交通機関（バスや電車など）で	8.6%	9.4%	▲0.8
自分や家族が日本人との結婚を考えたとき	8.5%	7.3%	1.2
政治的な権利の面で	16.3%	6.4%	9.9
その他	11.6%	6.8%	4.8
わからない	8.2%	17.9%	▲9.7
無回答	10.1%	13.6%	▲3.5

外国人市民が日本人市民を上回った選択肢のうち「職場で」が最も差が大きい（15.4 ポイント）。逆に日本人市民が外国人市民を上回った選択肢のうち「街を歩いているとき」が最も差が大きい（10.6 ポイント）。

⑷　「日本人にしてほしいこと」と「外国人に対してできること」の比較

問 24　広島市で生活していく中で、日本人にしてほしいこと（外国人市民向け）
問９　広島市で生活していく中で、外国人に対してできること（日本人市民向け）

外国人市民には「日本人にしてほしいこと」を、日本人市民には「外国人に対してできること」を尋ね、回答の割合を比較した。

選択肢（外国人/日本人）	外国人市民 (A)	日本人市民 (B)	差 (A-B)
挨拶や声掛けをしてほしい/する	26.0%	63.7%	▲37.7
地域の行事、イベントなどに外国人が参加しやすい環境を作ってほしい/作る	37.1%	13.3%	23.8
話しかける時には、できるだけ「やさしい日本語」を使うなど、工夫してほしい/する	34.8%	55.4%	▲20.6
地域のルールなどを外国語で教えてほしい/外国語により情報提供する	17.3%	8.3%	9.0
日本人の持っている知識や技術を教えてほしい/伝える	25.2%	10.8%	14.4
外国人との共生について理解を深めてほしい/深める	37.4%	22.9%	14.5
外国の生活習慣、文化などについて理解を深めてほしい/深める	33.3%	31.3%	2.0
差別意識を持たないようにしてほしい/する	54.8%	62.1%	7.3
日本語を教えてほしい/教える	25.6%	13.8%	11.8
地域の日本人と意見交換を行いたい/行う	16.7%	5.6%	11.1
困っていたときに声をかけてくれる/声をかける	22.6%	38.4%	▲15.8
外国人を支援するボランティア活動に参加してほしい/参加する	16.0%	5.2%	10.8
日本人に外国語を習得してほしい/自分自身が外国語を習得する	13.8%	22.9%	▲9.1

（注）表中の数値は、「してほしいこと/できること」があると回答した人に占める割合である。

外国人市民が日本人市民を上回った選択肢のうち、「**地域の行事、イベントなどに外国人が参加しやすい環境を作ってほしい・作る**」は 20.0 ポイント以上上回っている。

４　まとめ

- 本市の外国人市民の構成を見ると、特別永住者が減少し、外国人市民の国籍や在留資格が多様化している。また、居住期間の短期化など、外国人市民の流動化が進んでいる。
- 広島市の生活環境に対する外国人市民の評価は高いが、行政の窓口や情報提供の利用状況は 10 年前とほぼ変わっていないことから、これまでの取組を検証し改善を図る必要がある。
- 共生意識の面では、日本人市民側に外国人との共生についての実感がある人は少ないが、互いの交流については日本人・外国人共に肯定的な回答が多い。交流事業などをきっかけに相互理解を進めることが重要である。